



東漢書
卷之九
通鑑紀事本末



イヤ

Handwritten text on the dark brown cover, including characters like 'イヤ' and 'カ'.

○あまのひのあまのりくらま一斗酒の...
たきて飯よりき大津切入る...
あまのりくらまのあまのりくらま...
あまのりくらまのあまのりくらま...
あまのりくらまのあまのりくらま...
あまのりくらまのあまのりくらま...
あまのりくらまのあまのりくらま...
あまのりくらまのあまのりくらま...
あまのりくらまのあまのりくらま...
あまのりくらまのあまのりくらま...

Small vertical text on the left edge of the page.

あまのりくらま

○うしろの髪へのかゝらるうまづのゆかりやとある
の中ゆせうくのまきかほのほけつりよとてそのち
いふよまうまゝくしぎがそくたらしあよ入その日天
氣よへいふまうまゝけしがまなりゆのいづんうこお
ど天氣わくくまきひのいづくあよ入天氣よまきと
き右のいづくまきまうまゝけしがまゝかゝりて
うはれおよ入ぬ湯ようけまがりのあげ右のいづく
かまよへいづんまきまてまき然よのいづくまきま
■ 湯 湯の流るるをうれり
あまのけの流るるをうらむゆらま一練かゝいひ
のいづくまきまうまゝけしがまきまてううらま一練ま

合ふ二練あよまうらど入荒よりいあゝいあゝ
ぬのいづくまきまうまゝけしがまきまて流るる
をうらまゝけしがまきまて流るるをうら
○まきまてけけけ流るるをうらむくまきまてけ
けけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ
すていよまきまのいよあまをけけけ
○ 白濁の流るるをうらまきまてまきまてけ一練
ま一練うらよま白くまきまてまきま右のまきま
入をまきま三日月まきまてまきまてまきまて
まきまのいよまきまのSwanのSwanもまきまてま
まきまのいよまきまをうらま

1111

同たぬの酥さけ二升す二升ある二升つがよ入
をく方より丹日の内は酥より方ありこのまじりこ
一ツをれはそのまじりよてさけまかふるまじり合せよ
して一ツ入なりうくのまじりまじり酥のこゆる
かしまん種まじり方ありまじりまじり

六

一やゆの皮よりまじりのゆ
大豆二升あまのりまじりしてひきまのりかこまじりまじり
かじき二升あまのりまじりして二ツまじりまじり
大むぎ二升あまのりまじりしてまじりまじりひきまのり
一か七升ある二升二升この二色まじりまじりこるも
まじりまじり

同一やゆひき二升大豆二升志平二升ある二升
又練右の志やゆれまじりまじり

月だ一合どの志やゆ大むぎ二升まじりまじり
りりてひきまのり大豆二升まじりまじりひきまの
こと合りまじりまじりまじりまじりまじりまじり
一升八升入せんとて二升まじりして右のまじり
うき合せ又かまじりまじり又練入るなり日ひまじり
日かどしては白練二升まじりまじり二升三升入るゆよ
よそ右の一やゆまじり入又六日まじりまじりまじり
北日まじりまじりまじり

同二升ん志やゆの皮よりまじりまじりまじり

大豆二斗をそのままぬぐうはたてころもこのひく
ころは切しておむき六斗（六斗）こまりたてを（ミ）のま
ぬれころもようけ登し一斗が三斗ある二斗を
一斗うら皮二斗このうら皮とあまよしてようりてそ
らちりして入登しおしとすくうぬをこえて十日
かたすぎてころあしりし又おけよううくと
入をくたまり

同と梅子のあつらうのあしり登し大豆二斗大
むぎ二斗きか六斗まぬとこをまぬりてよにて
むぎ登せしころしてこもして大豆ののしきゆよ
ゆせてむらうけして二斗をき次の日ころり

しつちうどよ糸をせてろり志かを入あひひく
よ入て七日あつらしてあつかうせし志その三日
とも入三日かどゆしうけてをきころり出し一日か
して又おしうけころときあつらうゆつひがしよ
とべし又ころいぬもとこし入登し又大むき登や
ぬておむきと入るからとあり

北 あぬれ糸り登しれよ

とわあぬれ糸り登しりり乗二斗つひれぬし
とよたきかうど三合ある二斗を合太の三合を
なつハトときをすいぬハトをきそのちらよぬのふ
くらよ入さびてころりぬくそのころりぬぬあふ

入火とがそくたきそろくつと移りつめるなり白こと
 うと入て移せばわめよ白とららのでくたをり
 みろつらあつらと志がりのごてと移すべし
 とうふごほちり又志のたまらとよがうとよ
 う入をきうたよままうけよあつべし
 同わめれ移りるむじぎはのやしてのり
 てこよすべしよら葉よのうしきしてあつた
 てらまのあつるよなをたゆめらつたよ
 てめよひらくよ入むじぎのわりのことと葉
 二味あつたこと二合あつてあまうけよはくつた
 つたすれすぎぬとまむのよしてと移りため

しまつゆらくといのあめよのうしきあめよは
 移りためをぬつとよとらんまきしてそのう
 けてかこまらあつらときがうらひのぞよすべし

三十一

ゆづりのあつらへるれよ

ゆづりのあつらへるれよとよとまきしてそのう
 ち三えと大よのしまり合せそのちよとら
 うがはあつたのあつらへるのうらとあつて
 く移りてりられと移りてかそあつて
 といあつてうとらとよとあつたのあつて
 なこつたうとらとよとあつたのあつて
 同ゆづりのあつらへるれよ

てまゝ一合二合三合志が二合の沈りりませ
めんそのまゝくもがたやむいひかゝるゝの
てかゝるゝの

三 くのりんせうれあゝらゝるれり

ふせう二合三合志が二合の沈りりませ
くまろせまがよ合りいれよあまそのびのせう
へて天日よがたあまのびのせうとせうとせう
よごまきいれのいれまらゝるれりてあ
孫あぐらあぐらよまらゝるれりてあ
よらりてまらゝる

四 かゝるゝのこゝらゝるれり

たうまらゝるれりてあまのびのせうとせう
ふせうのびがらゝるれりてあまのびのせう
てそのこゝらゝるれりてあまのびのせう
てまらゝるれりてあまのびのせう
よらりてまらゝる

五 くのりんせうれあゝらゝるれり

一ちあうのたうまらゝるれりてあまのびのせう
ふせうのびがらゝるれりてあまのびのせう
のこゝらゝるれりてあまのびのせう
てまらゝるれりてあまのびのせう
よらりてまらゝる

世 小麦むぎの粉ことひきろりのす

おむきたはあつひしてまゝ〜ちかぶ〜とふりかき
つひしてちかぶ〜ときころとときひの〜なり

世 うどんのちかぶひのす

六七月のあつうたふひきりちかぶ一えらよ粉こ三だ
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶの肉この粉こ又しら
〜の〜

世 うどんのちかぶひのす

粉こ一巾よちかぶ三合入よまゝ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜

世 うどんのちかぶひのす

ふやあつよその〜あぶよ入そろ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜

世 うどんのちかぶひのす

ちかぶのちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜
〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜ちかぶ〜

あしこやなり

世 ぐいどそめ人のこらへきれす

ぐいどの物とせむいぬぬ湯とせらろくまよ。て
そのくろくむいよと白いと結まぬ内よ入て格ゆいの
るよりたうくしものておつがどたてちほん
のそいよあせのぢうがどのおあとののそのあ
のよんて入ておべ湯とせよくまうく
まんのまあより湯の中よとせくくまハそめん
よたよああり湯あふくくあまきなりき
よまのしよしよ

甲 ぐいどよられあくらをうのひ

ゆら糸いとと白しろと念ねん込入物よくまうんはよま
ぐんよぬ湯よて物とゆらよ。結ゆせんと
てよまぢがんとりあびうよよてはくぢ
右の湯よてよまころよあろくつきのべころよ
まてこの由よぢー入わろあまきうてものう
へよあぶががーよまべーえううてあ
—まきなり二ねとち結まきまびあ—まきなり
同くうのゆらちちら糸とせむいぬぬのてくちや
ゆらよつまあよてんよまて入ゆくつき糸
まてんてんよの由よあ糸の物と二念よ
あひ入合そのいらあてんてんの由よ入のて

その中へ一目をなせりてとてとりあへてあきま
よてなせりてなせりてなせりてなせりてなせり
命

甲 かうらふかむあいらん事

おむきの務かむにて二つから集のいかに合
さたりよてなせりてなせりてなせりてなせり
あつてなせりてなせりてなせりてなせり
とてなせりてなせりてなせり

甲 おむきの務かむにて二つから集のいかに合

と白のりから集とてなせりてなせりてなせり
くつら入おむきの合まのゆのそことぬき中へ

ぬのやきそのうへまの粉とてなせりてなせり
なせりてなせりてなせりてなせり
しつら入の合まのゆのそことぬき中へ

甲 まつら入の合まのゆのそことぬき中へ

おむきのいかに合まのゆのそことぬき中へ
なせりてなせりてなせりてなせり
らぬをうへに納してなせりてなせり
くつら入の合まのゆのそことぬき中へ
て中へ入るとなせりてなせり
白はまの合まのゆのそことぬき中へ
なりその合まのゆのそことぬき中へ

とさむ——とさむなむへんせしものへんせしとさむなりしもの
あ——らあ——りしてはよちししてつくはなり

四十四 **四** さうこのあ——らあ——りし事

あがしとさむなむへんせしもの西へしもの務り
してはよちのべしてさむへんせしはあからせしその
とさむのてくへんせしとさむなむへんせし合り
くばのいよし合さたらうとさむへんせし合こし
よんせしとさむのせしとさむのしよよの
——とさむのてくへんせしもの務りひらびと
そのうとさむのしよよのしよよ分りしひらびと
なむとさむのさうとさむへんせしとさむへんせしとさむへんせし

そのうち、この物ららりなむへんせしもの
らむとさむのしよよのしよよのしよよの
ひらびとさむのしよよのしよよのしよよのしよよの

四十五 **四** しとさむのしよよのしよよの

とさむのしよよのしよよのしよよのしよよのしよよの
とさむのしよよのしよよのしよよのしよよのしよよの
しよよのしよよのしよよのしよよのしよよのしよよの
しよよのしよよのしよよのしよよのしよよのしよよの
しよよのしよよのしよよのしよよのしよよのしよよの
しよよのしよよのしよよのしよよのしよよのしよよの
しよよのしよよのしよよのしよよのしよよのしよよの
しよよのしよよのしよよのしよよのしよよのしよよの

とさむのしよよのしよよのしよよのしよよのしよよの
とさむのしよよのしよよのしよよのしよよのしよよの

一斗よゆら米一斗二斗やぶの所りらゑのよゆ
 葉をいかにせんーらびーその湯よそはだき
 葉のくみみ味やどあゝまたきて一斗んあゝ
 やどきりてをきて二斗んあゝ一斗と味かよ
 て米と一斗りーちんのかなきかよよ
 ちりあび二斗んあゝ七八斗よそくひくいまゝ
 ちんよゆらぬーと米やでんーをきかよ
 して米がぢんぢん入るりまよそ一のちん
 ちんよゆらーと米と一斗んあゝよゆらうけ
 ちんよゆらりのおまよゆひてゑのまれぢんぢん
 せんどそちんよゆらまよゆひまよゆら

よとぶー

四十六

りら米の粉二合うゆー米の粉一合あゝせよ
 ぶーちんのしきんらちんのはよゆらて
 ちんよゆらちんのちんよゆらちんよゆら
 りらよゆら合

四十七

かーゆらちんちんのなよゆらにらゆら
 ちんよゆらちんよゆらちんよゆらちんよゆら
 てちんよゆらちんよゆらちんよゆら

四十八

ちんのちんよゆらちんよゆら

汁のきつゝきつゝにきつゝとやうにきつゝの
よに入らざるゝどあまゝくはなほあり

四五 あんまゝと 喰くひ

あんまゝとあまゝのこゝしよふらひやくゝんまゝのきつゝ
の荒とせんごとのめどあかひあ

平 ささうりよせをいれり

ささうり一鉢よ 酢す酒しゆ二合がし入てせんごう
がしのしよふらひあゝ又白しろいあまゝのきつゝ
くとあまゝのしよふらひよあまゝのきつゝ
てあまゝのきつゝとあまゝのきつゝ

五 標ひょうのきつゝあまゝのきつゝ

あまゝのきつゝあまゝのきつゝあまゝのきつゝ
あまゝのきつゝあまゝのきつゝあまゝのきつゝ
あまゝのきつゝあまゝのきつゝあまゝのきつゝ
あまゝのきつゝあまゝのきつゝあまゝのきつゝ
あまゝのきつゝあまゝのきつゝあまゝのきつゝ

標ひょう

あまゝのきつゝあまゝのきつゝあまゝのきつゝ
あまゝのきつゝあまゝのきつゝあまゝのきつゝ
あまゝのきつゝあまゝのきつゝあまゝのきつゝ
あまゝのきつゝあまゝのきつゝあまゝのきつゝ
あまゝのきつゝあまゝのきつゝあまゝのきつゝ

あまのくちけあり

向くくちのあしつらうもくつまら掃と
むきしてはらそのまをきそのらら
てそいよいよとあつて掃とらりあつと
ぬのあつてはらうはがまぐらあぢら
一まぐらそのうくあつてはらら
すけあきたらまららよをく

平

かららりのあしつらう
まぐらに十日あつてはら
ららあはらうとあつてはら
ららあはらうとあつてはら

うはらうとあつてはら
のあつてはらうとあつてはら
てあつてはらうとあつてはら
かこまぐら

向くくちのあしつらうもくつまら掃と
ゆよあつてはら又天日ようとあつてはら
うはらうとあつてはら
つまはらうとあつてはら
のうはらうとあつてはら
てそのらら天日ようとあつてはら
まらあはらうとあつてはら

あまのくちをあり

日向のまのあしをくちをくちまをくち
ひまをくちのまをくちのくちをくち
てそをくちをくちとしてくちをくち
ぬのくちをくちをくちをくち
へまをくちのくちをくち
すけかきたるくちをくち

平二

かたらぐりのあしをくち

まづくちをくち十日をくち
くちをくちをくちをくち
くらあはくちをくち

くちをくちをくちをくち
のくちをくちをくち
てありくちをくちをくち
かこまをくち

向くくちをくちをくち
ゆまをくちをくちをくち
くちをくちをくちをくち
のくちをくちをくちをくち
てそのくちをくちをくち
まをくちをくちをくち

よりけのねをきまじりて

りびとまきだをまじりてのまじり
まじりてまじりてまじりてまじり
こめをけいりてまじりてまじり

○りびのなまきまじりてのまじり
とてまじりてまじりてまじり
入りまじりてまじりてまじり
○たてまじりてまじりてまじり
まのぬまじりてのまじりてまじり
○まじりてまじりてまじりてまじり
ま合の入りまじりてまじりてまじり

くいひりりまきまじりてのまじり
まじりてまじりてまじりてまじり

○くまじりてまじりてまじりてまじり
粉まじりてまじりてまじりてまじり
日又らまじりてまじりてまじりてまじり
りまじりてまじりてまじりてまじり
てまじりてまじりてまじりてまじり
日くまじりてまじりてまじりてまじり
くまじりてまじりてまじりてまじり
まじりてまじりてまじりてまじり
ひまじりてまじりてまじりてまじり

としをいぢりゆくしてふんまきつらきなり
○わりのみえくまをくぢりあゝの葉よそつこ
かきかほいびくくくくくくくくくくくくくくくくく
まふとかりすおよそあゝとなすのつしまあを
ぬをうよあらとぬぐそをくなり

○ゆまのあどづりなまきむうゆま百よあ二斗
あか三味入うくたつぢあそくくくくくくくくくく
ぢそまよそまうゆまと百つひてつかよ入て
口とあゝくくくくくくくくくくくくくくくくく
八月のありま

○くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

かきとあはくくくくくくく

【五】 草束うあふの事

大うた糸まきむう三日あのかくうつり二日
かしてまきむくくくくくくくくくくくくくく
○あゝむまかきくくくくくくくくくくくくくく
へそのら湯のいむあまどをまき天目よかて
まけくむくくくくくくくくくくくくくくくく
○あゝむあゝあせむう三月のうつあふまねだ
正月の中よあせむくくくくくくくくくくくく
あふりのなり
同なあゝむあまかの一かあふむくくくくく

十日の朝ハツぢぢんと大きなるきりりとまよハ
もろろとかろとぢぢとろろとろろとをけぢぢ
おぢとなほあり

○本ほん草くさよあぢぢひひししききららままのの皮かわ
ろろとぢぢよよままのの井い入いりりああよよそ
ろろとそそののししききららののぢぢぢぢ
又本草ほんくさよあぢぢひひししききららままのの皮かわ
○よろろぢぢののううああぢぢひひししききららままのの皮かわ
ああぢぢひひししききららままのの皮かわ
ああぢぢひひししききららままのの皮かわ

くくししののああぢぢひひししききららままのの皮かわ
大たいああぢぢひひししききららままのの皮かわ
すすああぢぢひひししききららままのの皮かわ

安國年 正月吉日 開板之

信教部

大信部

大教

漢部

安部 正月吉也

安部

印部

主事

格員

部全

延至三月廿五日也

